

「志 定まれば、気盛んなり」

校長 桐野 和之

江戸幕末の長州藩、現在の山口県に、吉田松陰という人物がいました。目標に向かう自分の気持ちを志とし、その志を大切にしながら、日々実行していました。そして、「志定まれば、気盛んなり」という言葉を残しました。



志とは、心に決めた目標に向けて進もうとする気持ち、決心のことです。したがって、この言葉の意味は、目標への気持ちが志としてはっきりすれば、自ずとやる気や意欲が生じるということです。さらに松陰は、目標を決めるだけでは十分ではない、なぜ、その目標を定めるのか、その目標を達成する意味は何か、と目標への意味を自分で明らかにしたり、価値のあることだろうかと自分でしっかり考えたりすることが大切だと考えていたようです。つまり気持ちが入り強い意志があれば、目標について志をもち、気持ちは高まり盛んになるというわけです。

人は何かを始めようとするときに、自分は何のために実行するのだろうか、とふと考えるものです。勉強やスポーツ、いろいろな体験活動など日常の学校生活にその場面はいくつもあります。そして、人が行動するには、行動した結果、何が生まれるのかとも考えます。この考え方は、今風に言えば、目標を定め、目標達成のための計画や実行方法をつくり、ワンステップずつ達成していくことになるマネジメントと言えます。

実は、松陰は、自分で実行するだけでなく、独自の学習方法を生み出しています。

松陰が教えていた松下村塾という塾がありました。そこに入塾してきた若者に、「抄録（しょうろく）」という方法で、主体的な学びをさせていたと学んだ人が語っています。学ぶ若者の年齢に合わせて一冊の本を与える。よく読んで感銘したり、共感できたりした文章を自分で選んで、付箋という紙切れをその文章に貼る。次に自分で選んだその文章を、なぜこの文章にひかれたのかよく考えながら、その文章をそっくり写す。そして書き出した文章をもう一度よく読んで考えてみる。一冊終わると、松陰はまた一冊新しい本を与えて「抄録」をくり返させたとのことでした。

日本の初代総理大臣である伊藤博文も16歳くらいからこのような勉強をしたといわれます。何か素晴らしい考えを教えられたのではなく、自分自身で読書をし、なるほどというところを見つける。現在でも、読書でなるほどと思うことはたくさんあっても、その部分を書き出して、もう一度考えてみるということは少ないと思います。この抄録という方法では、自分の感じたことや、考えたことがより深められていくのです。明治の近代国家を切り拓いた若者たちは、自主的に考える抄録という読書方法により、学んだ人の本当の考えを主体的に自分の考えに深めていったと思われます。

松下村塾で学び、明治という新しい時代を切り拓いていった多くの人物たちは、この抄録という主体的な学びが自分をつくりあげてくれたと振り返っているようです。



皆さんも、なりたい自分を想像し、志をもって、目標を抱いてみましょう。志が定まれば、必ず、自分もやってみようと前向きに、やる気が盛んになることと思います。

貫井中学校が開校した頃の思い出

第7回卒業生 貫井中学校同窓会会長

1 貫井中学校周辺について

貫井中開校当時、昭和38年は小生小学3年生の時です。北側、東側、南側は現在より校地は狭かったと思います。北側は元々の畑（菜の花？）と一部住宅があった程度。東側は、現在の花壇になっている敷地は、民間の工場のような建物があったと思います。正門の位置は現在と変わらないと思いますが、坂道も舗装されていたかどうか記憶があいまいです。また南側は、現在の下校庭は「酒悦」の福神漬工場が建っていたか、開校後に建ったか、これもあいまいです。校庭南側に細いクランク型の道路があり、校庭からの高さは3mぐらい下にあったと思います。夜は暗くて女性が通行するのは恐いくらいだったと思います。



当時は、貫井町内には、4階建て以上の建物はまだなかったと思いますので、3階以上からの眺望は良かったものと思われます。

富士見台駅の北口周辺は工場地帯で、駅から学校への経路はほとんど工場が建っていたと記憶しますが、今の学校南側に向かう道路は無かったと思います。その後昭和40、41年ごろ？現在のコモディイイダより150mぐらい南西に「飯田百貨店」ができ、当地でははじめてのスーパーマーケットとして、貫井以外の近隣の主婦が多く買い物にきました。それ以降道路も少しずつ整備されるようになりましたが、従前は砂利道が多くて、雨が降ると長ぐつでしか歩けないような低い土地でした。当時の先生方はほとんど中村橋から通勤されていたと思います。自転車、車で来られる先生も多くいらっしゃいました。

2 開校当時の政治・経済・社会の様子

東京オリンピック（昭和39年10月）開催の前年ということで、貫井地域は昭和30年代前半くらいから人が多くなって住宅や商店などがどんどんできて、活気があったと思います。目白通りが当時は通称「十三間(ゲン)道路」と呼ぶ人が多く、オリンピックに間に合うよう練馬の千川通りとの交差点から谷原の交差点まで拡幅開通したのが、ちょうど昭和38年ぐらいだったと思います。地元ではマラソンのコースになる、なんていう噂があった程で、急いで道路建設をしたのではないかと思います。（結局マラソンは甲州街道でやりましたけれど）。現在の光が丘は、当時は米軍のキャンプ「グランドハイツ」という軍人用の住宅群でした。小生も英語の勉強と称して施設内に入り、アメリカ人の子供たちと遊んだこともありましたが、不法入国ということで、ときどきMPに車にのせられて退去させられたりしました。



昭和38年当時の首相は池田勇人、都知事は東 龍太郎、区長は須田 操。初代のPTA会長越後 幹夫氏は、すでに区議をやられていたと思います。

定かではありませんが、昭和38年4月の開校に間に合わず、5月ごろ練馬中学校から貫井と一部向山地区在住の1、2、3年生が、自分の椅子をもって引っ越しをしてきたというシーンがおぼろげながら憶えています。3年生（貫井中1回生：昭和23年度生まれ）は貫井中での在校期間は10ヶ月あまりぐらいだったのでは。現同窓会副会長（第1回卒業生）は当時中1。小学校の時も練二小で低学年を過ごし、向山小の開校（34年？）で転校と、小中で二回転校を経験した世代です。

前述のように工業地帯として発展した貫井は、学校南、東側の「貫井川」は廃液で汚染され、「公害」が騒がれた時代でしたが、人々も元気があり、未来に夢のもてる時代だったと子供心にも感じました。

3 教育界のようす

教育行政については子供の身で良く判りませんが、都立高校入試に学校群制が導入さ

れる以前なので、貫井中3年生か4年生までは、9教科の入試だったと思います。練馬中学校から分かれて当初の数年は、先生方もそのまま本校へ赴任された先生がほとんどで「練馬一の中学校に」という気概にあふれた時代だったと思います。それにより、上質な生徒が集まるようになって、越境で貫井中に来てた人も多かったのではないかと思います。PTAも大学教授の奥様など教育レベルの高い方々が多く務めておられ、自主的な映画上映会や、予防接種のワクチン注射を自宅を開放して実施するような方もいらっしやったと記憶しています。練二小PTAから続く「こどもを守る会」という母親たちのグループがありました。戦後18年がすぎ、戦争の傷跡もほとんどなくなり、物質的にも豊かになりつつも、まだまだ貧富の差もあり、なかには“不良少年”になるようなケースもあったと思いますが、私たちは総じて、毎日が楽しく、周囲に守られながら青春時代を送れたと思っています。

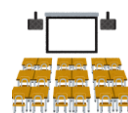


思い出すままに、つらつら書き連ねましたが、若い頃の記憶はよりバラ色に脚色されているような気がします。今も貫井中の生徒たちが幸せを感じて学校生活ができますよう願います。乱筆乱文、失礼を致しました。

貫井中学校に赴任して

第1学年所属 A教諭

こんにちは。この4月に着任いたしました、A教諭です。教科は理科、所属学年は1年生になります。部活動は軟式野球部とサッカー部を担当しております。着任してから1カ月がたちましたが、貫井中生は生徒が主体的に学校を動かそうとしており、とても活気のある学校であると感じています。そして、生徒全員が礼儀正しく挨拶できるため、私は心地よく毎日を過ごすことができています。



さらに、授業では課題に前向きに取り組んでいる生徒が多く、校庭に生えているヤマザクラの葉のスケッチも熱心に取り組んでおり、今後の授業が楽しみです。これから宜しくお願いいたします。

第1学年所属 B教諭

初めまして！令和5年度4月から貫井中学校に着任したB教諭です。4月に入学した1年生が、貫井中学校の生徒として元気よく頑張っている姿を見ると、1カ月も一瞬で過ぎていったと感じます。貫井中学校にきて、最初に感じた貫井生の印象は、「元気な挨拶をいっぱいする」でした。名前も知らない私に対して、積極的に挨拶してくれた姿は今も鮮明に覚えています。1カ月が過ぎた今も「おはようございます」や「こんにちは」のような挨拶が聞こえるのは、貫井中学校の生徒の良いところだと感じます。

私は、1年生と3年生の社会科を担当しています。各学年それぞれ違う反応があって、いつも楽しく授業を行っております。

1年生の社会科の授業では、初めての中学校での授業で緊張しながらも、理解しようとする積極的な姿が、3年生の社会科の授業では、メリハリを持って授業に取り組む姿が見られます。1年間どうぞよろしくお願いします。

学校業務支援員

4月より、貫井中学校事務室に、学校業務支援員として着任しました。練馬区立富士見台小学校から来ました。中学校での勤務は久しぶりです。

貫井中学校に来て、最初の印象は“生徒が自ら進んで、大きな声であいさつができる素晴らしい学校”ということです。いつも多くの生徒が、笑顔で、そして大きな声であいさつをしてくれるので、こちらも嬉しくなり、とても清々しい気持ちになります。

あいさつは、当たり前とも思われますが、社会に出てからも、とても大切なことです。中学生の頃からしっかりと身につけ、いつどこへ出てもしっかりと恥ずかしくない姿はたくましくもあり、それを受け継いでいっている貫井中学校の皆さんは素晴らしいと思っています。

私は事務員ですので、生徒の皆さんと接する機会は少ないかとは思いますが、生徒の皆さんがよりよい学校生活を送れるよう、陰ながらサポートしていきたいと考えております。今後とも、よろしくお願いいたします。

学校事務補助員

4月から学校事務補助員として勤務させていただいております。貫井中学校に着任する前は、練馬区役所教育委員会事務局に8年間勤務しておりました。

貫井中学校では楽しみにしていることが2つあります。1つ目は正門周辺に植樹された植物を眺めることです。事務室の私の席からよく見え、仕事の合間に眺め癒されています。春は桜やつつじ、夏は緑、四季それぞれの景色が今から楽しみです。2つ目は給食です。小中学校時代を通して給食を食べた経験がなく、提供される温かい給食は栄養バランスや調理法が考慮されていて、毎回お腹も心も満たされます。

勤務してまだ一か月ですが、毎朝生徒達の元気な挨拶からエネルギーをもらっています。みなさまの学校生活が円滑に送ることが出来ますようお手伝いさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



運動会を終えて

6月1日（木）、明後日に運動会を控えた朝に天気予報を確認すると曇りのち晴れと表示。それまで全て雨マークが続いていたが、やっと晴れマーク。今年も天候は貫井中学校を味方したと思い気分が楽になっていた。

ところが1日を終えて学校を退勤するころには、雨マークに急変。台風の影響らしい。翌日は教職員で急遽雨対策の打合せ。慌ただしく時間が過ぎた。

しかし、天候は回復せず、3日（土）の運動会は6日（火）に順延。学校としてはどうしても3日に実施したい思いがあった。それは本校の運動会の特色にある。会場設営、用具、召集、出発合図、決勝審判、監察、表彰、記録などをはじめ、その他。生徒たちが運営上担う役割や責任は多岐にわたっている。観覧した方々には「先生の姿が見えない運動会」と表現する方もいる。それだけ、生徒が主体となって取り組む場面が多い行事である。先生方が手を出さないのではなく、前もって指導し、生徒が主体的に行動できるようにしている。だからこそ競技だけでなく、その行動ぶりを通して、生徒が責任をしっかりと果たす様子を大勢の人に見てほしいのです。

中学生が義務教育を終え、中学校巣立っていくことは「自立」を意味している。人に言われて行動する段階から、自ら考えて判断し、自らの意志を表明する段階へと大きく変わっていく。運動会は生徒が自らの成長を実感し、変化を遂げていく場でもある。それだけに休日に実施し、できるだけ大勢の方々に貫井中学校の運動会を見てほしいのです。平日開催の今年でしたが、今年も生徒の確かな成長を体感する運動会を実施できたと思っています。

